

和's YAMATO

わす やまと

Autumn
2010



坂本龍馬の軌跡 第三回 船中八策と大政奉還

～幕末、龍馬の目には、日本と世界がどのように映っていたのか～

お客様紹介 ● 介護老人保健施設「ゆりの木」様 (埼玉県入間市)
● 天然温泉「天地の湯」様 (群馬県渋川市赤城町)

名水探訪 神流川(かんながわ)の源流



神流川で渓流釣りを楽しむ釣り人。釣りの解禁シーズンは、賑わいをみせる。



神流川流域に棲息するイワナ。淡色の斑点模様が美しい



Text/Naoya Kinoshita
Photo/Norio Ishimori



群馬の秘境とも呼ばれる上野村の中でも、神流川上流にはとりわけ手つかずの自然が残っていて、三国山からの清水が流れてくる。



ダム湖からさらに上流に行くと、中止の滝がある。道路から100メートルほどの急坂を昇る。この地域を開発するため調査していた役人が、滝の見事な風景に思わず「工事中止」と叫んだことから中止の滝と呼ばれるようになったとか。

名水探訪

第六回 神流川(かんながわ)の源流 群馬県多野郡上野村



神流川は上野村の南端にある三国山の北面を源とし、その清流が釣り人の間で人気の高い川で、平成20年に環境省が認定した、平成の水百選にも選ばれています。国土交通省による川の水質調査(関東地方主要河川のBOD年平均値による水質ランキング)では、平成16年から19年まで4年連続で関東きれいな川に認定されています。

上野村は9割以上が森林で、手つかずの自然が残る地域なため森林浴や登山に訪れる人も多く、釣りや川遊びの場としても知られています。神流川の美しい清流を維持するため、同村の漁業組合を中心に、地元住民や小中学生が参加する清掃活動が行われています。また、生活雑排水対策として、合併処理浄化槽の設置を進めており、河川水質の向上に顕著な効果が現われているそうです。

漁協では、川魚の放流や釣り場の整備も行っており、神流川はイワナやヤマメ、アユなど清流に棲む多くの渓流魚が釣れることでも有名になっています。

株式会社ヤマトPR誌
和's YAMATO 2010 Autumn/第6号 2010年10月 発行(秋号)(季刊・年4回発行)
発行/株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118
TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL www.yamato-se.co.jp



支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎
営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野、渋川、川口、東北、多摩、滋賀
関連会社/大和メンテナンス株式会社 株式会社埼玉ヤマト 株式会社ヤマト・イズミテクノス ヤマト・イー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社 株式会社荒井興業

わす やまと
「和's YAMATO」の由来
ヤマトの漢字の和、Water & Airの頭文字を合わせてWA、Sはスタート、ヤマトが発信するメッセージです。



船中八策と大政奉還

幕末、龍馬の目には、日本と世界がどのように映っていたのか



薩長同盟に危機感を募らせ、幕府の反撃が始まる——寺田屋事件

龍馬の活躍で慶応二(一八六六)年に、薩摩と長州を結びつける薩長同盟が成立し、倒幕の動きはさらに加速した。龍馬が薩摩と長州を歩み寄らせたことを察知した幕府は、龍馬の襲撃を画策する。それが、薩長同盟成立のわずか二日後の一月二十三日に起こった寺田屋事件である。その日、寺田屋では、龍馬の護衛で槍の名手である長府藩(長州藩の支藩)の三吉慎蔵(みよししんぞう)と、寺田屋の女将・お登勢、妻のお龍が待っていた。龍馬が寺田屋に入ったのは夜中で、二階奥の間で三吉と薩長同盟の祝杯をあげていたが、このとき既に、寺田屋は幕府の役人に包囲されていた。



龍馬が頻りに通っていた船宿の寺田屋。現在も宿泊することができる。当時の建物は鳥羽伏見の戦いで焼失し、その後再建された。



寺田屋の戸外で不穏な動きを察知したお龍は、入浴中にもかかわらず危険を告げて2階に走ったという。

役人が踏み込む準備をしていた時、入浴中のお龍がそれを察知、裸のまま二階に駆け上がり、龍馬に役人が来ていることを告げる。ほどなくして役人が二階に押し寄せたが、早くも行灯の火は消され室内は暗闇であった。龍馬は高杉晋作から譲り受けたピストルで役人を撃ち、三吉は槍をふるい応戦したが、龍馬は右手を負傷、二人はからくも寺田屋を脱出した。

追求の手から身を隠そうと、川沿いにある材木小屋に逃げ込んだ一人だったが、三吉は龍馬に潔く自決しようと言進する。しかし、龍馬は、「死ぬ覚悟があるならば、薩摩藩邸に連絡してくれ」と頼み、自らは材木小屋に隠れる。龍馬は傷が深く歩ける状態ではなかったのだ。三吉が薩摩藩邸にたどり着くと、薩摩藩では既に龍馬の身を案じていた。寺田屋で戦闘が繰り広げられていた時、お龍が寺田屋から薩摩藩邸に救いを求めに來ていたのだ。薩摩藩は、三吉から龍馬の隠れ場所を聞き、船を出して無事に龍馬を救い出すことができた。



酒造が並ぶ伏見界隈。水運の要衝で、河原町、木屋町まで水路が続いている。



龍馬が使っていた寺田屋・梅の間にある床の間。

龍馬 船中八策を示し、新しい国のあり方を説く

龍馬が結成した亀山社中は、慶応三(一八六七)年に海援隊と改称し、土佐藩の支援を受けることになった。隊長となった龍馬は、同年、兵庫から京都へと向かう土佐藩の「夕顔丸」の中で、同藩の後藤象二郎に、大政奉還などの政治構想案「船中八策」を披露する。

後藤は土佐勤王党に暗殺された吉田東洋(よしだとうよう)の甥で、東洋が暗殺された報復に勤王党を弾圧した経緯があり、龍馬や亀山社中にとっては仇敵ともいえる相手であった。その後藤と龍馬は慶応三(一八六七)年一月、長崎の料亭で話し合い、手を結んだのだ。その背景には亀山社中の経営難があり、それを打開するため土佐藩が経営を支援し、「海援隊」と改称して活動を活性化させたい思惑があった。

後藤は、薩長を主軸とする倒幕勢力に遅れをとっていた土佐藩の政治的立場を強化する方策を探っていた。土佐藩の支援を得ている龍馬は、政治の舞台で存在感を示すための方策として、船中八策を土佐藩から提起すべしとの思惑があった。議会開設や官制改革、法典の制定など、八つの構想を掲げた船中八策の中で、

龍馬の存命中に実現されたのは大政奉還のみであったが、その他の政策は明治政府で実行された。船中八策には、龍馬の先見性と深い洞察力とが見てとれる。**大政奉還の実現 徳川幕府265年の歴史に終止符**

大政奉還の目的は、日本国内での内戦を回避し、平和的に政権を朝廷に返上して新しい国家体制をつくることにあった。その主導的な役割を果たしたのが土佐藩であり、龍馬であった。慶応三(一八六七)年十月三日、土佐藩主山内容堂(やまうちようどう)署名の大政奉還建白書が幕府に提出され、同十四日、二条城に集まった諸藩の代表者に徳川慶喜が通達して、朝廷に政権の返還を奏上。こうして、龍馬が願っていた流血の無い倒幕が現実のものとなった。



龍馬のピストル(模型)スミス&ウェッソン型アーミー32口径。アメリカ南北戦争で大量に生産されたもので、高杉晋作が上海に渡ったおりに入手して龍馬に贈る。寺田屋で襲われた際このピストルを使った。(高知県立坂本龍馬記念館蔵)



上/宇治川派流を往来する十石船。



御香宮神社(ごこうのみやじんじや)の御香水。飲むと万病に効くといわれており、日本の名水百選になっている。



鹿児島県 塩湊温泉にある龍馬とお龍の新婚湯治碑。

お龍との新婚旅行

西郷隆盛の勧めで、療養のため薩摩へ

寺田屋の襲撃で負傷した龍馬は、西郷隆盛に薩摩での療養を勧められ、慶応二(一八六六)年三月、お龍とともに薩摩藩の汽船で下関や長崎を経たのち、三月十日に薩摩領に入った。そこで約1ヶ月間、湯治や霧島神宮の参拝、高千穂山の登山など、つかの間の休息を楽しんだ。龍馬とお龍の薩摩への旅は、後日日本初の新婚旅行とも言われるようになった。



円山公園内に建つ龍馬と中岡慎太郎の像



材木商・酢屋の外観。二条から伏見に流れる高瀬川沿いには、幕末には材木商が数軒あり、酢屋はその代表的な存在だった。酢屋の当主は国のために奔走する龍馬に共感し、自宅の一室を海援隊の本部に提供した。(2)



二条城の古写真。(京都大学附属図書館蔵)



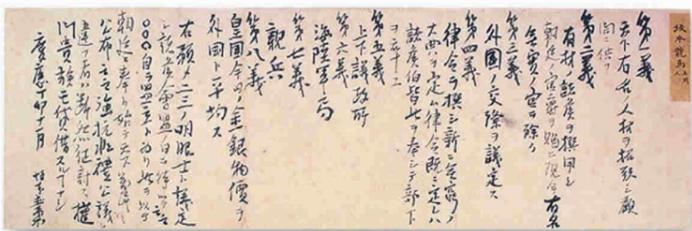
二条城の大広間で大政奉還が告げられる。(二条城絵葉書より)



酢屋で龍馬が暮らしたことを示す高居跡の碑。(2)

その後、男は来客を装って龍馬たちのいる部屋の襖を開け、龍馬の前に正座してからいきなり斬りつけた。次いで数人の刺客が乱入、龍馬と中岡は応戦むなしく斬殺されるに至った。

近江屋での龍馬暗殺の実行犯は、京都見廻組とする説が有力である。見廻組は幕臣で組織され、会津藩主で京都守護職の松平容保(まつだいらかたもり)の配下に置かれていた。同類の治安組織・新撰組と大きく異なる点は、幕府から重大事件の捜査権限が与えられていたところにある。見廻り組は、政府転覆(倒幕)を推進している龍馬を討ち取る機会を常に狙っていたのであろう。



龍馬が船中八策を改良し成文化した新政府綱領八策。憲法、議会、内閣、陸海軍の設置や、治外法権撤廃、関税自主権の回復と、近代国家の幕開けを告げる内容。(国立国会図書館蔵)

龍馬は、もしも徳川慶喜が大政奉還に同意しなかったら、海援隊士を引き連れて慶喜を襲撃し自分も死ぬと後藤象二郎宛の手紙にしたためている。そこからは龍馬が単なる平和論者ではなく、時代の大変革が起こる過程においては、ある程度の犠牲はやむをえないと考える現実主義者の側面をあらわに持っていたことがうかがえる。後日、龍馬は新政府設立を目指して、船中八策を「新政府綱領八策」と改良し成文化している。



池田屋騒動の地。新撰組は、池田屋にて大勢の志士たちによる会合が池田屋で行われているところに入り込み制圧した。現在は居酒屋になっている。(4)



勤王の志士を支援した古高俊太郎は、この地で枳屋を営み支援活動をしていた。昭和7年からは、料理屋の志る幸となり、多くの常連や観光客が足を運ぶ。(5)



名物の点心「利休餅當」(2415円)にも汁がつく。白味噌、赤味噌のハーモニーが絶妙の味わい。



左/土佐藩の勤王志士・武市瑞山の寓居跡(6)



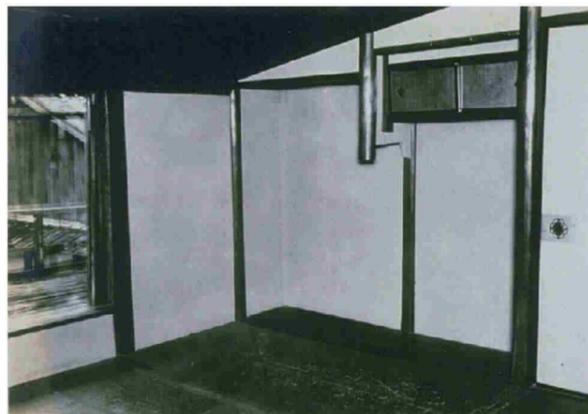
左/土佐藩邸跡。当時は脇を流れる高瀬川に面して門があった。(6)

薩長同盟、大政奉還と時代を動かす大仕事を成し遂げた龍馬であったが、そのために幕府からは恨みを買ひ、常に命を狙われていた。寺田屋事件の折には、逃走中にピストルで捕り方を射殺したこともあり、以後、幕府からは罪人として追われていた。

慶応三(一八六七)年十一月十五日夜半、龍馬は土佐藩御用達の醤油商・近江屋の二階で同志の中岡慎太郎と話をしていた。夜食の軍鶏(しゃも)を使い走りの少年に買いに行かせ、中岡が帰ろうとするのを引き止めている時、何者かが階下の戸を叩いた。訪ねてきた男は十津川の郷士だと名乗り、用心棒の元関取・藤吉が二階に案内すると、その背後から切りつけた。

その中では、新しい盟主となる人物を〇〇として具体的に明記しなかった。龍馬がこの箇所に、誰を入れようと考えていたのかについては諸説があり、その人物は慶喜とも容堂ともいわれている。しかし、龍馬の新しい政治構想の実現は、道半ばにして摘み取られてしまうこととなる。

京都の近江屋で危難に遭遇 夜襲を受け非業の死



近江屋・龍馬遭難の間の古写真。(京都大学附属図書館蔵) (1)



近江屋跡。碑には「坂本龍馬・中岡慎太郎遭難の地」と書かれている。近江屋の龍馬遭難の間はこの碑の南側にあったと推定されている。(1)



禁門の変で激しい戦闘が展開された京都御所の始御門



京都市役所前のホテルオークラ敷地内にある楠村虎太郎像

幕末を駆け抜けた龍馬 その偉大な功績

坂本龍馬の最大の功績は、日本を幕府、反幕府に二分した全面戦争への突入を未然に防いだ点にある。当時、フランスは幕府、イギリスは薩長など反幕府勢力を支援していたため、もし反幕側が幕府を攻撃すれば国内は外国が加担した戦乱状態となり、やがては外国の武力によって勝敗が決する可能性が高かった。そうなれば、内戦後の実質的な政権は、外国人に握られた公算が大きい。

薩長同盟、大政奉還で幕府権力を後退させ、内戦を回避し新しい国家体制を築いていく。龍馬は、急激な政変は望まず、まず幕藩体制を解体し、身分

制度の是正や、外国の侵略を阻止する国防力の強化を図り、新生日本を築くために行動した。

「藩」の枠を飛び出し、「日本国」の存立を求めた数々の行動は、現代人の心に今なお鮮烈な印象を残している。坂本龍馬の生き方を知り、その功績を学ぶことは、これからの日本の在り方を考える上で、大きな指標となるであろう。



京都東山の霊山(りょうぜん)墓地に建てられた龍馬と愼太郎の墓。二人の遺体は慶応三(1867)年11月18日に近江屋を出棺し、この霊山に葬られたと伝えられている。



霊山墓地は、京都霊山護国神社が管理する墓地で、三千百人を超える幕末維新の志士が祀られている。



幕末期の資料を約5000点収集している霊山歴史館の風格ある玄関 八坂神社。地元の人には祇園さんと呼ばれ親しまれている。

龍馬略年表 (薩長同盟締結から、王政復古の大王令まで)

【年 令】	【事 項】
1866 慶応2 32	<ul style="list-style-type: none"> 1月21日 薩長同盟を締結 1月24日 寺田屋で幕府の捕方に襲撃される 2月5日 薩長同盟の証人として木戸文書に裏書き 2月 お龍と結婚 3月1日 お龍と新婚旅行のため伏見を出発、薩摩へ 6月7日 第2次長州征伐、開戦 6月17日 桜島丸に乗船、第2次長州征伐に長州側で参加 7月20日 徳川茂病死 12月5日 徳川慶喜が15代将軍に就任 12月25日 孝明天皇崩御
1867 慶応3 33	<ul style="list-style-type: none"> 1月13日 土佐藩参政後藤象二郎と面談 4月 海援隊発足、隊長となる 4月23日 いろは丸沈没事件 6月 後藤象二郎に船中八策を示す 6月25日 中岡愼太郎とともに岩倉具視を訪ねる 9月14日 海援隊、ハットマン商会からライフル銃1300挺購入 9月18日 ライフル銃を積んだ震天丸に乗り、長崎を出港 9月20日 下関に寄港、お龍と再開これが最期の別れとなる 9月28日 土佐坂本家に帰り、約5年半ぶりに家族と再会 10月13日 酢屋より近江屋に宿を替える 10月13日 武力討幕派が討幕の密勅を得る 10月14日 大政奉還 11月15日 近江屋で刺客に襲われ死亡、享年33歳 12月2日 下関のお龍に龍馬の死が伝えられる 12月9日 王政復古の大王令



坂本龍馬肖像画 藤田紫香 画作者の藤田紫香は昭和初期の画家で、寺田屋のお登勢が町の画家に描かせた龍馬の肖像画をイメージして藤田画伯が描いたものと推察される。(高知県立坂本龍馬記念館蔵)

ゆとりと安らぎを感じる施設



＊ゆりの木様 省エネ設備を備えた施設です。



＊入間ハート病院様 蓄熱システムを導入



＊明るく広々としたダイニングルーム

介護老人施設ゆりの木様は、「自分らしく暮らせる、もう一つの家」をテーマにした施設づくりを実践しています。たとえば、きめ細かなサービスを提供する「ユニットケア」や、楽しく筋力維持ができる「パワー・リハビリテーション」を提唱。要介護の状態が現段階以上進まないように、入居者の方々の自立した生活を、長期にわたって支援しています。

個人の生活リズムを尊重した暮らし

日々の生活では、家庭的でくもりのあるサービスを提供するために、少人数の方々を決まったスタッフがお世話をする「ユニットケア」を採用しています。入浴や食事などは、すべてにおいて「定時」という決まりを無くし、入居者の方々の生活リズムを尊重する配慮がなされています。また、居室は全個室で、日当たりのよい南向きか東向きのお部屋です。ご自宅のような雰囲気です、お一人の時間を満喫することができます。

また、家庭的な安らぎを得られるスペースとして、食事の場を設けています。お食事は各フロアのダイニングルームで、職員と一緒に召し上がりいただけます。各ユニットでは炊飯を行います。さらに、お好きな物をお好きなだけ選んでいただくバイキング食も用意されています。

介護が必要になっても自分らしくありたい、居心地良く生活したい。自然な気持ちで大切に考える施設です。



＊施設長の瀬尾先生

介護老人保健施設ゆりの木様と同敷地内の入間ハート病院様が大温度差蓄熱空調システムを導入したのは2005年でした。昨までの実績値をみると、空調熱源のランニングコストが大幅に削減されていることがわかります。蓄熱システムを導入した費用分は、ランニングコストの削減分でまかされており、当初の予定通りあと2年で初期費用分を回収するランニングコスト削減効果を得られます。

電気料金の大幅なコスト削減で、安定した施設運営をサポートするとともに、CO2排出量を低減し地球環境保全に貢献するのが、ヤマト大温度差蓄熱空調システムです。エネルギーの有効活用がますます必要になってくる時代に、大きく貢献するシステムといえるでしょう。

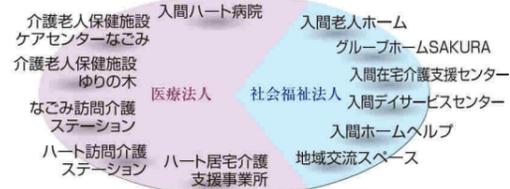


＊開放感のあるコミュニティルーム

ゆりの木までのアクセス



永仁会グループ



医療法人永仁会(永田雅良理事長)は、医療、社会福祉サービスを総合的にネットワークしています。全身のがんを早期に発見できるPET画像診断を導入するなど、先進の検査・医療も導入しています。詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.iruiru.co.jp/irumaheart/>

ランニングコストを大幅低減。空調のエネルギーコストを実額保証



施設概要

- 施設名称 介護老人保健施設「ゆりの木」・「入間ハート病院(熱供給先)」
- 所在地 埼玉県入間市小谷田 1258-1
- 建物概要 「ゆりの木」RC造地上6階 6,182m² 「ハート病院」S造地上4階 4,062m²
- 熱源機 空冷ヒートポンプチラー 375kw(140HP)×2台 全蓄熱運転
- 蓄熱槽 有効水量 800m³(ゆりの木 地下ピット部設置)
- 空調機 省エネ型ファンコイルユニット+インバーターポンプ(一部 マルチエアコン採用) 遠隔にて、監視・制御 運転実施
- 電力契約 業務用電力6kV 蓄熱調整契約 蓄熱運転により、夜間時間に最大需要電力が発生する場合の取り扱い適用



開放感あふれる露天風呂。ここからぶどう畑や、遠方の山々が見える。街の夜景も美しい。

■ 入浴料	一般600円 小中学生400円
■ 休館日	毎月第3水曜日
■ 開館時間	10:00~21:00(夏季)

赤城山のふもと ぶどう畑の小さな癒し湯 100%かけ流し「天地の湯」9月オープン



「ルンズ・ファーム赤城ぶどう園」社長の永澤徹様。



たわわに実ったワイン専用品種のぶどう



「天地の湯」と広大なぶどう畑。完全無農薬栽培が実践されている。

天然温泉「天地の湯」は地下160メートルから湧出し、無色透明で少し空気に触れると薄い黄金色になります。この地は約7000万年前は海だったところで、汲みあげる温泉は「化石水」と呼ばれます。

泉質は塩化物泉、100%掛け流しで、冷え性・筋肉や関節の痛み・便秘・更年期障害などに効能があり、とてもよく温まります。家族風呂や足湯もあり、小規模ながら様々な楽しみ方ができる施設です。

ルンズ・ファーム 永澤社長のお話

天地の湯から見渡せるぶどう園では、9ヘクタールの畑に1万5千本のぶどうの木が育ち、それらはすべて無農薬栽培です。木々が元気で光合成が活発です。周囲は酸素の濃度が高く、深い癒しの感覚を得ることができます。

建物に使う木材は材質に問題のないB級品で、組み立てはほとんど自分たちの手で行いました。温泉設備はノウハウを持ったヤマトさんに仕事をしてもらい、本当によかったと思っています。またレジオネラ対策でも大変誠意のある仕事をしていただき感謝しています。

Text&Photo/Naoya Kinoshita



レストラン「大家族の食卓」。無農薬栽培の野菜がおいしい。内風呂の窓から外の木立が見え、自然を感じながら入浴できる。



内風呂の洗い場。天井が高く、木のぬくもりに包まれてリラックスできる。



温泉の供給設備。温泉を大気に解放することなく(酸化させないで)、メタンガスを除去しつつ浴槽へ直送できるシステム。



木材の温かみを引き出した外観。

ルンズ・ファームの仲間たち

ルンズ・ファームには、鳥や昆虫のほか、たくさん動物たちも姿を見せる。



ワイン醸造専用品種ぶどう農場 ルンズ・ファーム赤城ぶどう園

〒379-1115 群馬県渋川市赤城町溝呂木1270
TEL/0279-56-5333

<http://www.luns-farm.com/index.html>

「ルンズ・ファーム赤城ぶどう園」では10年前に開墾を始め、ワイン用のぶどうを育ててきました。現在、ワインの醸造免許を申請中で、今秋にもワイナリーをオープンさせたいと考えています。

天地の湯が湧く「赤城ぶどう園」
ロマンの森倶楽部
食・農・自然に学び、
人と社会を癒す場所

温泉施設には冷房設備は無く、便利な設備も極力省きました。「不便さを楽しむ」のも、この施設のコンセプトのひとつです。本物の温泉や、無農薬栽培の野菜を使った食事を楽しみ、木の呼吸を感じながらせせらぎの音を聞く。そんな癒しの場所として、皆様に親しんでいただきたいと思います。

天然温泉と自然醸造のワインを楽しめるワイナリー、榛名山や妙義山を一望できる景観などが、新しい癒しのスポットとして注目されています。

「ルンズファーム赤城ぶどう園」の「ロマンの森倶楽部」には、レストラン「大家族の食卓」や無農薬栽培のコーヒーショップ、ベーカリーなどのお店があります。既にオープンしている「森の図書館」を皮切りに、今後もギヤラリー、音楽ホール、フィットネスクラブを建設する予定で、自然の中で様々なコミュニケーションの場を目指しているとのこと。

詳しくは、下記のホームページをご覧ください。



関越自動車道 赤城IC-6分→ロマンの森倶楽部(天地の湯)
送迎バス JR上越線敷島駅←随時→ロマンの森倶楽部(天地の湯)